

# Glocal Tenri



5

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.12 No.5 May 2011

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
“我が身可愛い”の恐怖  
／深谷忠一 ..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (65)  
その他の文書⑥  
／安井幹夫 ..... 2
- ・ 天理異文化伝道の諸相 (79)  
コンゴ伝道に見る異文化接触 [45]  
／森 洋明 ..... 4
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (29)  
内なる倫理的エネルギーの発動こそ宗教の存在意義  
／金子 昭 ..... 5
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の  
民族誌学 (26)  
ハワイ人の宗教文化  
／井上昭洋 ..... 6
- ・ 現代ジェンダー論展望 (15)  
災害とジェンダー  
／金子珠理 ..... 7
- ・ 天理スポーツ (12)  
天理スポーツ シンポジウム②  
／難波真理 ..... 8
- ・ アメリカ通信 (2)  
パークレー留学体験記：食卓を囲めば、  
尋ねられて  
／深谷耕治 ..... 9
- ・ English Summary ..... 10
- ・ おやさと研究所ニュース ..... 11  
第 235 回研究報告会／第 19 回宗教研究会「現代世界の“死”に見るいのちの危機と宗教の課題 (2)」／第 7 回伝道フォーラム「ネパールの天理教」開催／第 236 回研究報告会／南米出張調査報告／宗教者災害支援連絡会 (宗援連) 設立集会に参加して／新刊案内／平成 23 年度公開教学講座のお知らせ

## 巻頭言

## “我が身可愛い”の恐怖

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

東日本大震災でお出直しなされた方々に哀悼の意を表し、  
罹災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

「語り得ないことについては、沈黙するほかない」とはある哲学者の言ですが、筆者も未だ今回の大震災を前にしての言葉を発する準備はできていません。しかるに、福島県で被災した親族が「それだけはぜひ書いておいてほしい」と筆者に申したことについてだけは記しておきたいと思えます。

“目に見えない放射能の恐怖”などという見出しが新聞や雑誌にあふれ、原発事故によって日本中が汚染され、重大な健康被害や遺伝的異常が拡がるかのような報道がなされています。その結果、被災地の皆さんが大変な苦境に陥っているのですが、今日本がそんな危険な状態になっているなどというのは、事実とは異なる偏見報道なのです。

例えば、“水や野菜などに‘食品安全基準’の何倍もの放射線”などと報道されると、どんな恐ろしいことが起きているのかと思えます。しかし、その安全基準なるものの数値は、その食品を一生食べ続けるリスクを考慮して決められているものであって、その値を何倍か超えた食品を1、2度摂取したぐらいでは、すぐに健康被害が出ることはないのです。

また、魚介類から何ベクレル/kgの値が検出され、その被曝量は何ミリシーベルトだなどと言われても、それはその魚や貝を1年間続けて摂取して到達する数値です。ある食材が1年間続けて同じように被曝し、それを同じ1人の人間が365日食べ続けるとは考えられませんから、言われるような値の放射線がそのまま体内に入るとは、先ず起こり得ないことなのです。

放射線医学総合研究所放射線防護研究センター長は、「もし100ミリシーベルトの被曝をした場合、10～20年の後に、100人中1人の割合でガンになる人が増える」とコメントをしています。毎日欠かさず汚染した水を飲み続けて15ミリシーベルト、汚染したホウレン草を食べ続けて8ミリシーベルト等々と加算していけば、年間で100ミリシーベルトの被曝になる可能性もゼロではないかも知れません。しかし、続いての「しかるに、人工的な放射線とは関係なく、自然にガンになる人は、100人中40人程いる」というコメントを読むと、100分の

40が41になる可能性を大げさに危惧すること、どれ程の意味があるのかということです。

また、ガンと共に喧しく言われる遺伝的影響についても、原爆投下を受けた広島、長崎での医療機関や政府機関が実施した調査によって、被曝者から生まれた子供の小児死亡率、染色体異常の発生率、身長・体重などの異常は認められないという結論が出ています。ですから、“放射能＝障害児”などというのもまったくの偏見なのです。

もちろん、原子炉が制御不能になり大爆発を起こしたりすれば、多くの人々の生命・健康に関わる被害が発生します。しかし、そうでなければ、根拠の薄い放射線への恐怖におびえて溜まるストレスの方が、むしろ健康に悪いと言えるのです。

さらに申せば、「皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。めんへ楽しんで、後々の者苦しますようでは、ほんとの陽気とは言えん。」(明治30年12月11日)とご神言にあるように、人類創造の目的である陽気ぐらしを達成するためには、自分だけが助かれればよいとはいけないのです。今回の大震災に際しても、自らの生命を賭して周りの人を救ってくださった多くの人々の崇高な出直しが報じられていますが、各人の人生の有り様・中身が、親神様に喜んで頂けるかどうか問題なのです。

放射能への偏見によって、被災地からの農産物や海産物を忌避することは、現地の人々の苦しみを増し、復興への希望を奪います。そんな風評被害を払める片棒を担いで健康長寿を得たとしても、そこに親神の望まれる陽気ぐらしがあるとは考えられないのです。

あるいは、そんな高尚な話ではなく、功利的な立場をとっても、必死で放射線を避けて延ばせる寿命と、過ぎたる“我が身可愛い”の心のほこりを積んで削られる寿命と、差し引きでどうなるかを考えれば、取るべき道は明らかなのです。

放射能への過度の反応を慎み、安全宣言がなされている被災地からの産物をできるだけ多く購入して、復興・自立の支援をさせて頂く。それが、“一れつきょうだい”を標榜する私たちの態度でなければならぬと思う次第です。